

ZENZA

BRONICA

使いかた・写しかた

BRONICA

BRONICA

BRONNICA

BRONNICA

BRONNICA

あなたの新しい

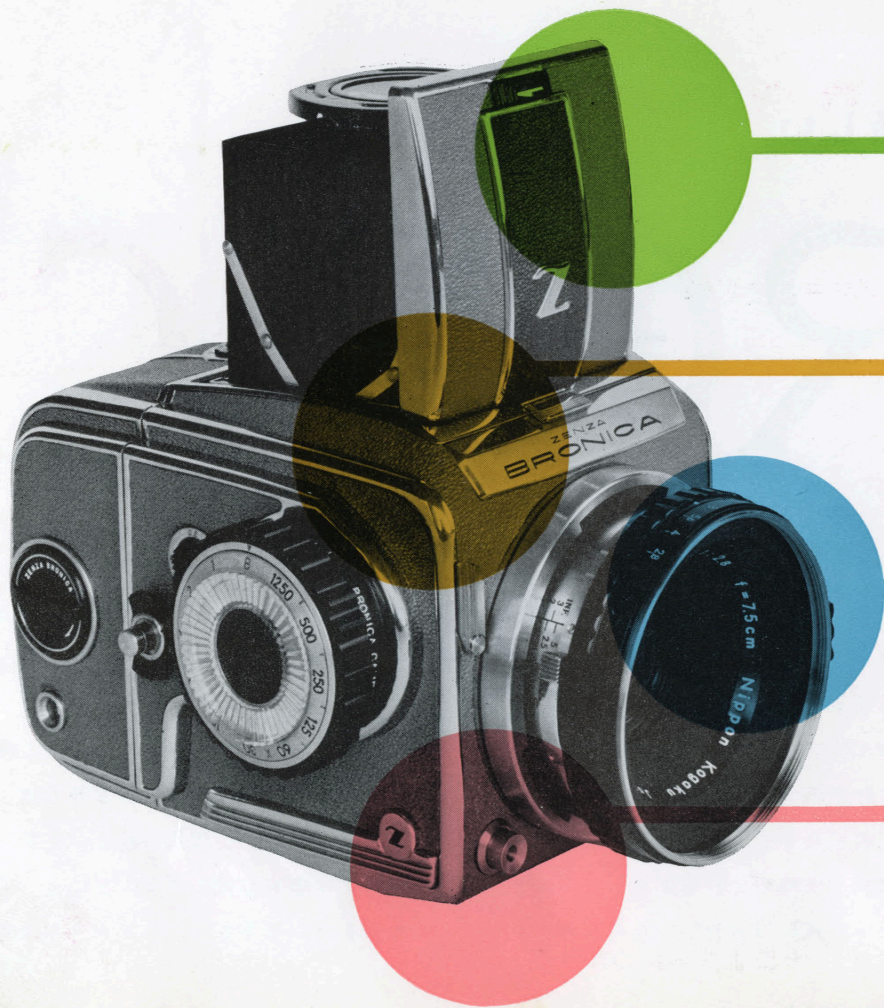
BRONICA

新しいブロニカについて十二分に知っていたくこと、これが何よりも大切に、そうしてこそ広汎な写真する楽しさと喜びを存分に満喫していただくことができますよう。

ブロニカは極限的なあらゆる技術の粋を集めて創られた頭脳的な働きをする精密機械です。内蔵された五十余にのぼる自動装置の便利さは、この形式の他のいずれのカメラにも見られない全くユニークなものであります。それは在来のカメラが到達し得た以上に写真的な表現の分野を拡大し、これまでのカメラではなし得なかった撮影領域を可能ならしめてお

ります。きっとあなたにいつも素晴らしい結果が約束されましよう。そしてお使いになられる程にこのカメラの良さと深さがしみじみとおわかりいただけること、思います。

御使用に当り、わずかの時間をさいてこの説明書をよくお読み下さい。そしてブロニカの詳細な使い方に十分精通して下さい。それに対して払われる努力は、将来に亘りあなたの好伴侶ブロニカが、写真の新しい宇宙へお導き申し上げ、存分にその使命をお果しすることによって報われることと確信いたします。そうしてこそブロニカは満足いたします。



説明書内容

ページ

プロニカの図解

8 - 17

プロニカの特長

18 - 23

フィルムの装填法

24 - 27

プロニカによる写真の撮り方

28 - 38

(目次の詳細は次のページをごらんください)

目 次

ブロニカの図解

	ページ
正 面	8, 9
上 面	10, 11
右側面	12, 13
左側面	14, 15
底 面	16, 17

ブロニカの特長

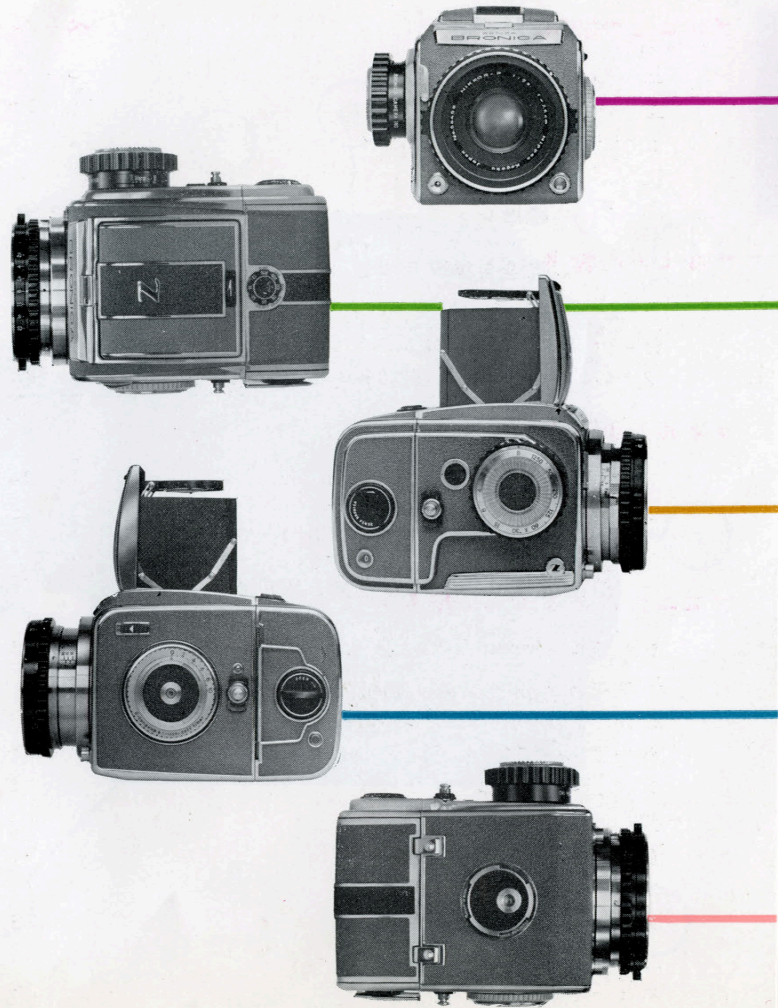
インスタント リターン ミラー	18, 19
完全自動絞りと深度検視用手動絞りボタン	20, 21
フィルム バックとニッコール レンズ群	22, 23

フィルムの装填法

フィルム バックの外し方	24
フィルム バック後蓋の開け方	25
フィルムの装填と後蓋の閉め方	26, 27

ブロニカによる写真の撮り方

シャッターの捲上とフィルムの送り方	28
絞りのプリセットと焦準	28, 29
深度検視用手動絞りボタンの使い方	30
セルフ タイマーの使い方	30, 31
シャッター スピードの決め方	32
露 出	33
多重露出と交換レンズ	34
フラッシュの使い方	35
ストラップの使い方	36
三脚座(スピードロック)の使い方	37
ニュートラル復元スクリーン	38



8-9

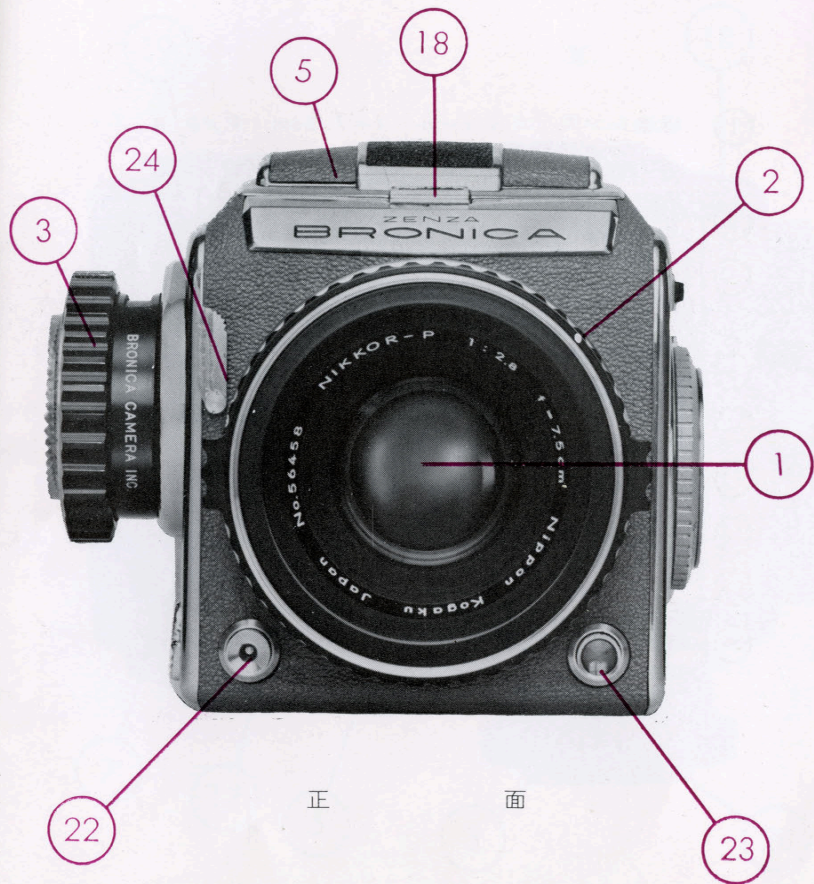
10-11

12-13

14-15

16-17

- ① 標準レンズ ニッコール $f=7.5\text{cm}$ $F/2.8$
完全自動絞りつき
- ② 絞りプリセクターリング
- ③ 焦準ノブ〜フィルム送り兼用
- ⑤ 着脱式ピントフード（ルーペ付）
- ⑱ ピントフードの着脱用ロック
- ⑳ シャッターボタン（リリース孔付）
- ㉓ 手動絞りボタン（焦点深度検視用）
- ㉔ 焦点固定レバー



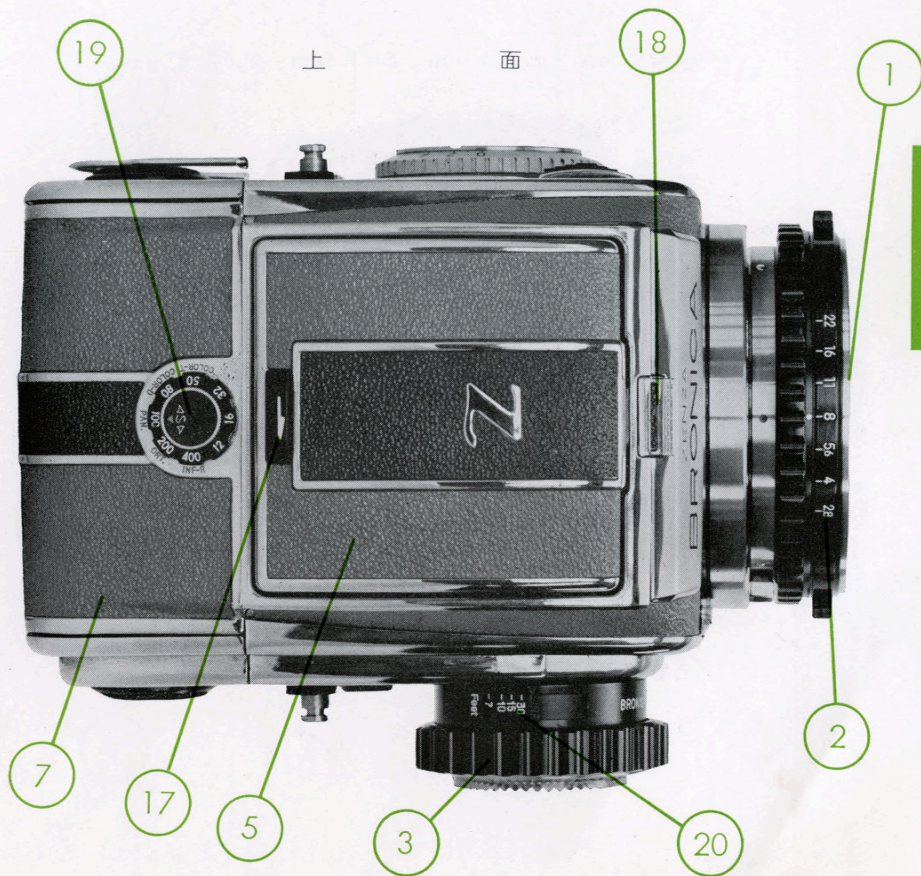
正 面



- ① 標準レンズ ニッコール $f=7.5\text{cm}$ $F/2.8$
完全自動絞りつき
- ② 絞りプリセクター リング
- ③ 焦点ノブ~フィルム送り兼用

- ⑤ 着脱式 ピント フード
- ⑦ フィルム バック
- ⑭ ピント フードの開閉ボタン
- ⑮ ピント フードの着脱用ロック
- ⑰ ASAフィルム感度インジケータ
- ⑳ 7.5cm レンズ用焦準目盛

上 面



① 標準レンズ ニッコール $f=7.5\text{cm}$ $F/2.8$

完全自動絞りつき

② 絞りプリセクター リング

③ 焦準ノブ～フィルム送り兼用

④ シャッタースピード ダイヤル

1秒から $1/1250$ 秒まで、および“B”と“X”

⑤ 着脱式ピント フード

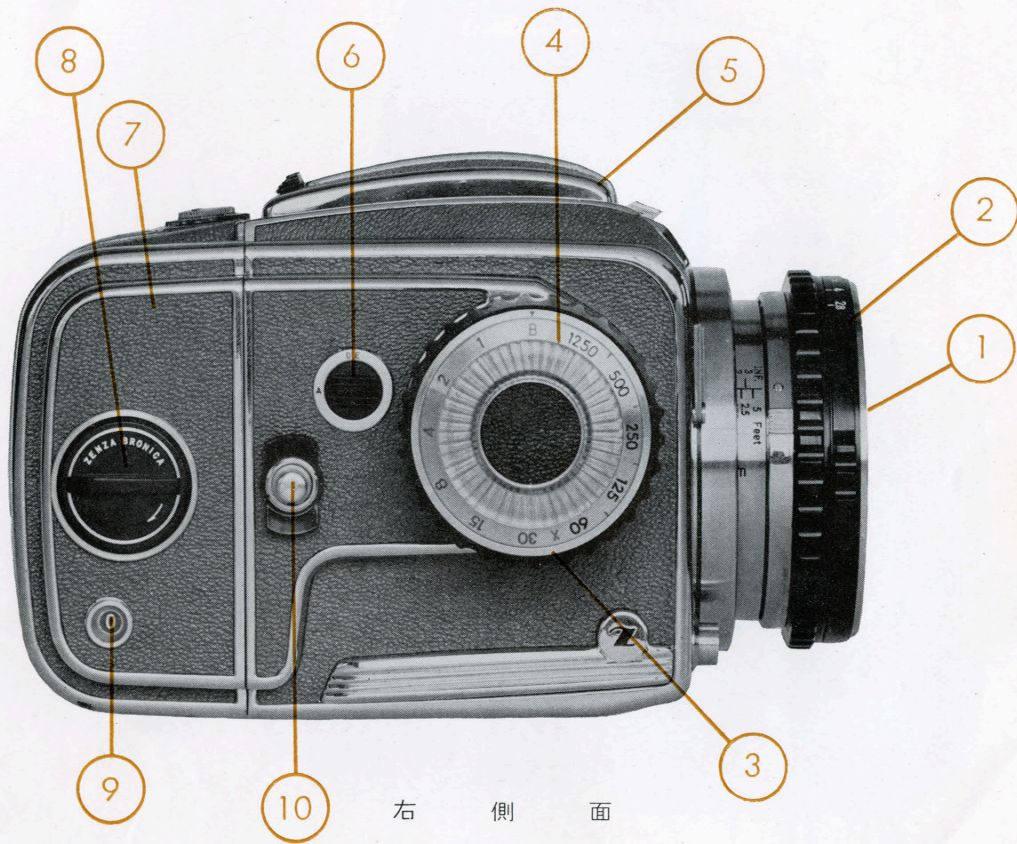
⑥ 二重露出ダイヤル

⑦ フィルム バック

⑧ フィルム捲上環

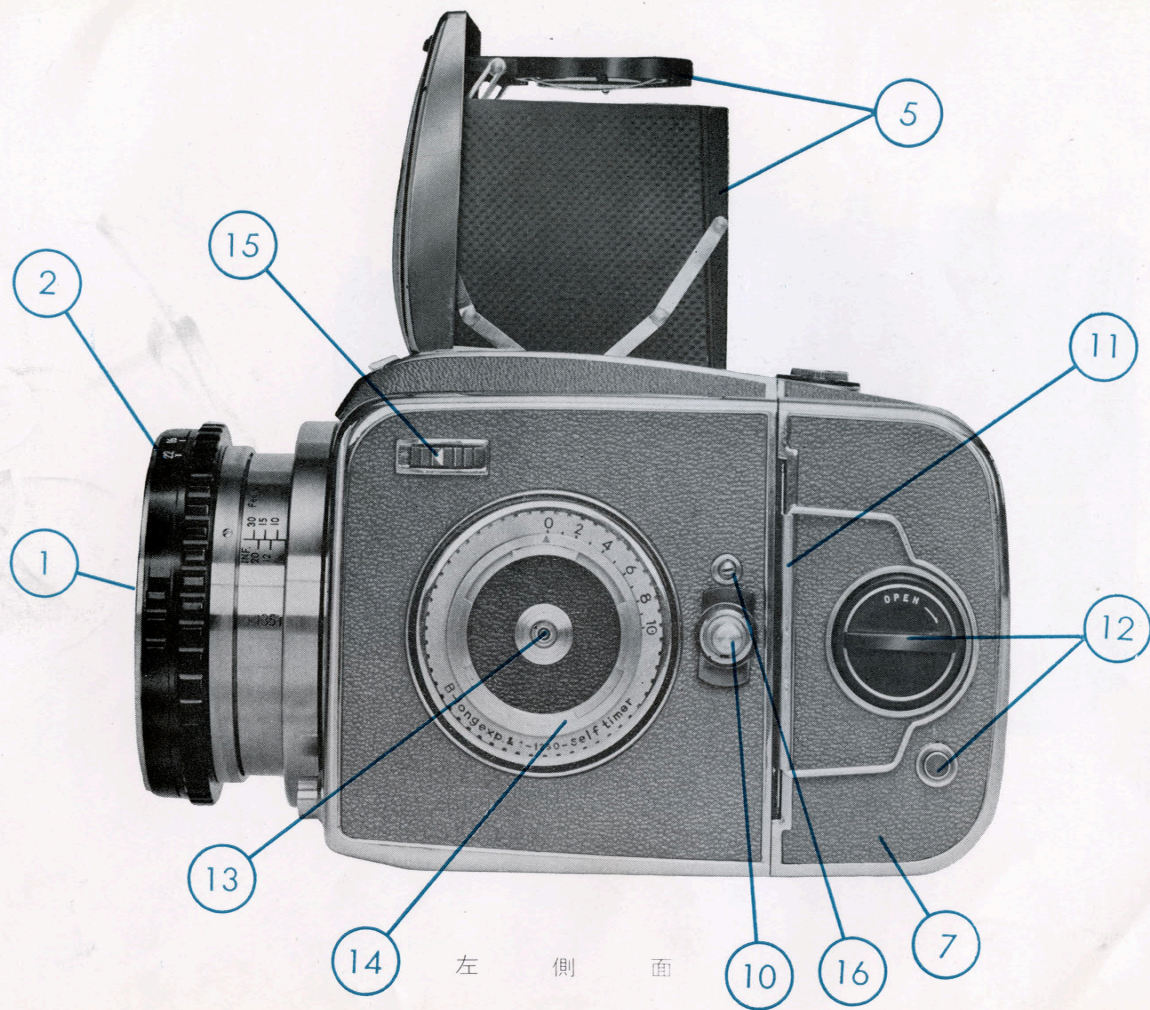
⑨ 自動復元式フィルム番号表示窓

⑩ ストラップ取付座



右側面

- ① 標準レンズ ニッコール $f=7.5\text{cm}$ $F/2.8$
完全自動絞りつき
- ② 絞りプリセクター リング
- ⑤ 着脱式 ピント フード
- ⑦ フィルム バック
- ⑩ ストラップ取付座
- ⑪ フィルム バック用引蓋
- ⑫ フィルム後蓋の開閉つまみとロックボタン
- ⑬ フラッシュのターミナル
- ⑭ セルフタイマー ダイヤル (セルフタイマー及び
長時間自動露出用) 2秒～10秒
- ⑮ セルフタイマー用ロック
- ⑯ ニュートラル復元スクリュー



① 標準レンズ ニッコール $f=7.5\text{cm}$ $F/2.8$

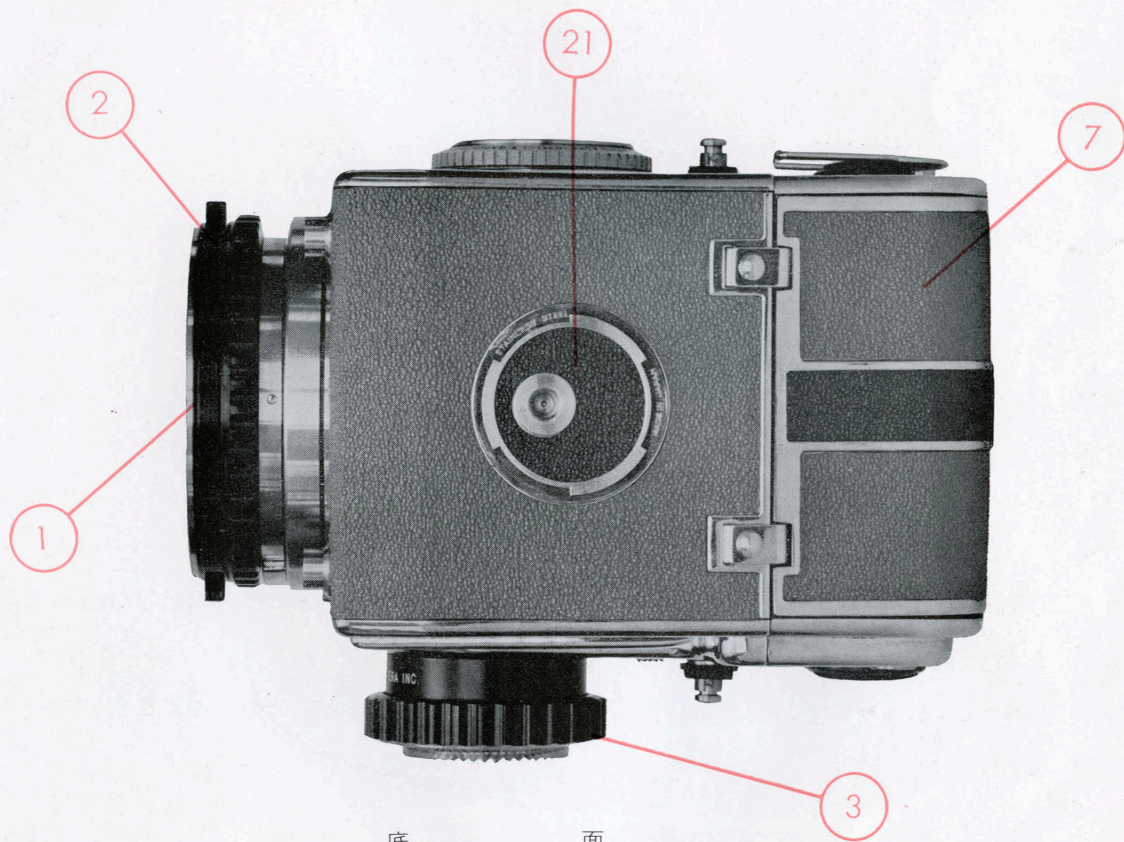
完全自動絞りつき

② 絞りプリセクター リング

③ 焦準ノブ~フィルム送り兼用

⑦ フィルム バック

⑳ 三脚取付座 ($\frac{1}{4}$ インチ 小ネジ付)



底 面



ブロニカの特長

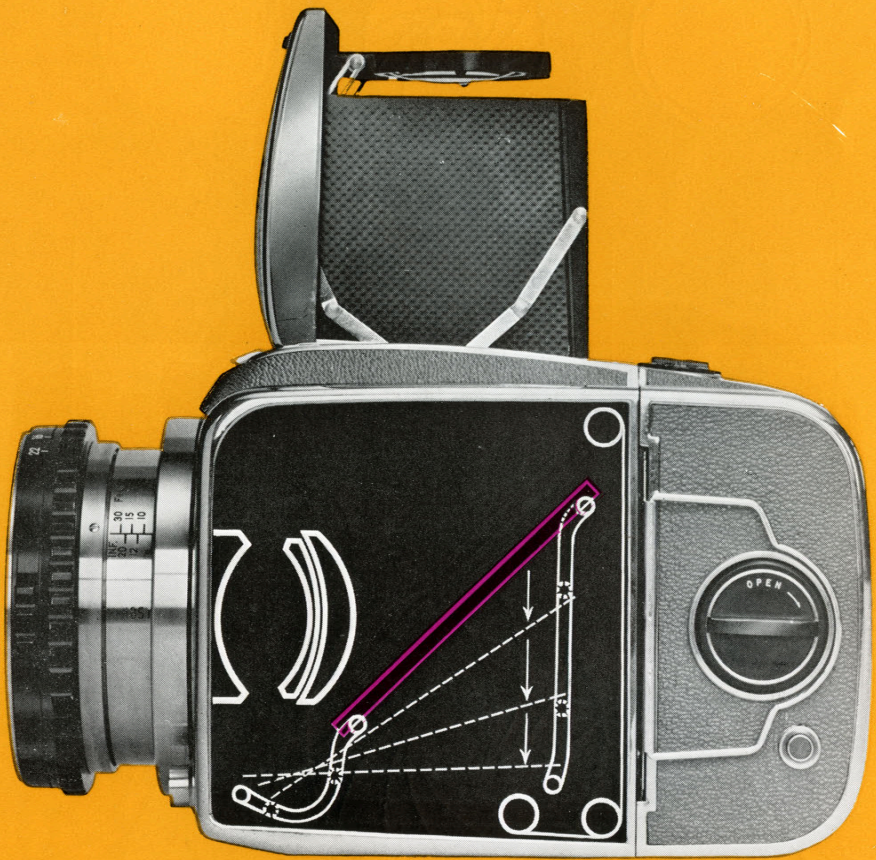
ブロニカをお使いになると露光中以外はピントガラスから画像が消えません。

焦点を合わせ構図をさめシャッターをきっても、ピントガラスの画像は露出前と同様のピントで明るくはっきりと映っています。これによってシャッターを切る際に見たまゝの像が写るのだということが判り、写真の出来上りに確信がもてましょう。

これはブロニカを最も素晴らしい機械にした2つの特長、すなわちインスタントリターンミラーおよび完全自動絞り機構によるものであります。

インスタントリターンミラー

ブロニカのミラーの運動は全く独創的なデザインで、他の一眼レフのように上にはね上がるものではなく、斜前方に降下して露出後自動的に復元するという新方式です。このためにミラーは45°の定位置より前には出ないので、短焦点レンズや大口径レンズを装着する余裕があります。





露出前



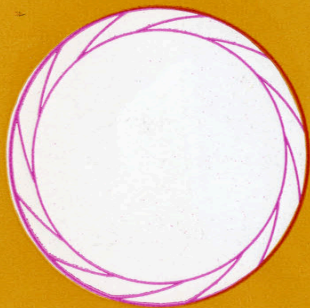
露出時



露出後



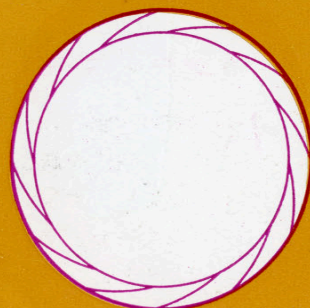
露出前後のピン
トグラスの画像



絞り開放の
焦準



手動絞りボタ
ンを押して焦
点深度を見る



ボタンを放し
て絞り開放の
画像を見る

完全自動絞り装置

プロニカレンズ群は完全な自動絞りとなっていますので、絞り開放のレンズで焦点を合わせ構図を決められます。

露出が行われる時には絞りは予め定めておいた値まで自動的に絞り込まれます。

露出が終れば直ちに絞りは自動的に開放に戻り、ピントグラスに明るく鮮明な像が見られ次の撮影が直ちに出来ます。

焦点深度検視用手動絞りボタン

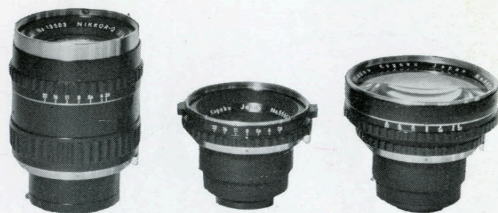
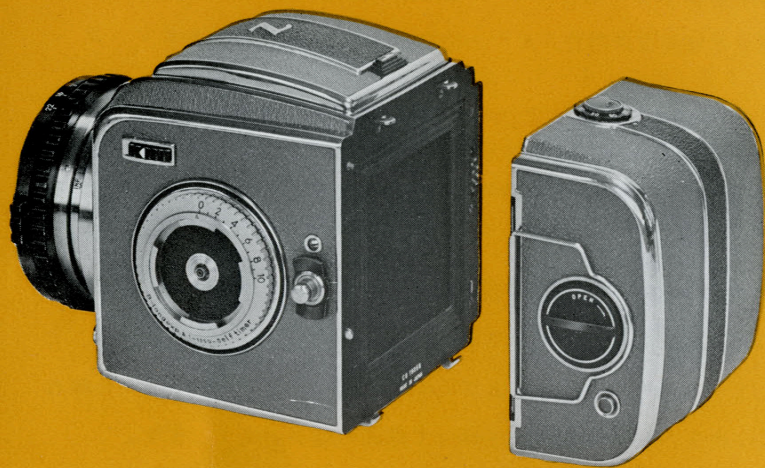
プロニカ用のニッコール レンズ群は、焦点を合わせ構図を決めるときは常に絞りが開放なので、映像を最も明るく正確に見られます。然し撮影の際の絞りで焦点深度を見たいことがよくありますので、このために手動絞りボタンを備えてあります。

これを押しますと絞りは予め定めておいた大きさまで絞られ、これを放せば再び絞り開放となります。

フィルム バック

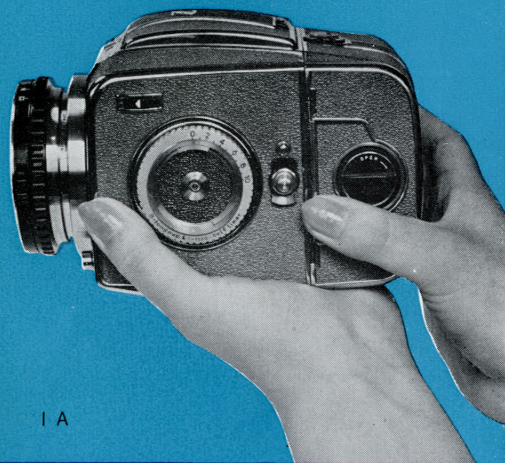
これは色々な特長を持つ便利なもので、撮影の中途でも1枚の無駄もなく他のフィルムバックと白昼交換出来ます。即ち幾つかのバックにそれぞれフィルムを装填しておけば、カラーから白黒、白黒からカラー、或いは人工光用と昼光用など、いつでも交換が自由自在で、そのまゝ取替えて撮影できます。

フィルムバックは完全に自動的で且つ安全です。カメラからはずしておいても金属の引蓋がありますから光線をひくことはありません。この引蓋を挿入しない限りフィルムバックをボディから外すことはできません。又交換バックがカメラから外れている間は、この引蓋は絶対に抜きとれないようになっていて、不用意な露光を防止しています。又フィルムバックをカメラに取り付けるときも、フィルム或いはシャッターが捲かれているかどうかを考える必要は全くありません。通常はシャッターとフィルムを同時に捲上げる捲上げノブが、この場合は捲かれていない方だけを自動的に選択して捲上げる構造になっているからです。たとえばシャッターが捲上げられていてフィルムが露出済の場合は、捲上げノブをまわすとフィルムだけが1枚分送られ、次の撮影態勢となります。その反対に、フィルムが捲上げられていてシャッターが捲上げられていないときは、シャッターだけ単独に捲上げます。またフィルムバックをカメラボディにつけても、引蓋を引抜かなければシャッターは作動しません。

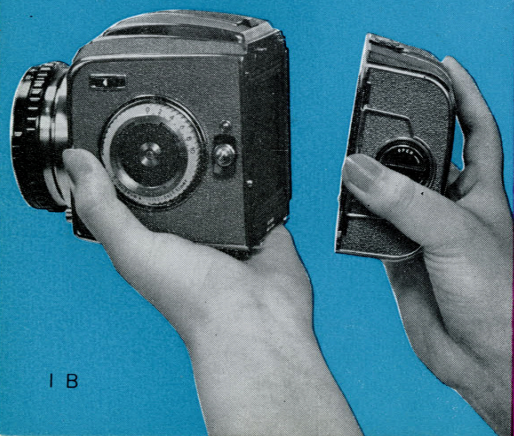


ニッコール レンズ群

プロニカの使用レンズ群はすべてニッコールレンズです。プロニカのすばらしい性能を最高度に発揮させるための優秀レンズとしては、世界的に定評あるニッコールにおいては見当りません。このすばらしいニッコールレンズ群はプロニカ用として新設計されたものであり、5cm 広角から 100cm 超望遠までの各種焦点距離からなっています。なお5cm、7.5cm、8.5cm および 13.5cm の各レンズは、完全自動絞り装置を組合せて、“オート・ニッコール”として設計されています。



1 A



1 B

フィルムの装填法

フィルムの装填——プロニカはカメラボディからフィルム バックをはずしても、またカメラボディにつけたまま、でもフィルムを装填できます。まず初めにフィルム バックをはずした場合について説明いたします。(カメラボディにつけたまま、で装填する場合は次のII. A. の箇所からお読み下さい。)

I. フィルム バックのはずし方

A. カメラボディを左手に持ち右手でフィルム バックを握って引蓋の突起部に親指を当てます。

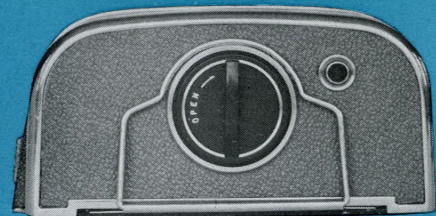
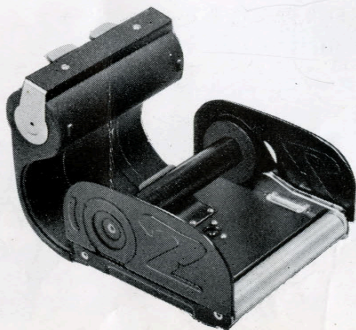
—注意—フィルム バックは引蓋を挿入しなければカメラボディからはずせませんから初めに入れておいて下さい。

B. 次に親指で引蓋を押し込みますとフィルム バックの天部がボディから離れます。図の通りフィルム バックを傾けて底部の鍵からはずします。

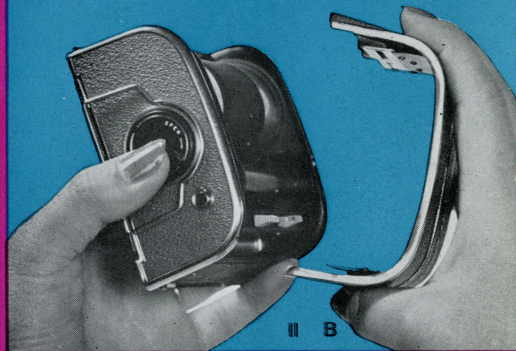
—注意—フィルム バックの引蓋は二種類あります。一つは大型のつまみがついたもので操作上便利にしてあります。いま一つは小型のつまみがついて、引蓋をつけたまま カメラを持ち歩く場合に適当です。(つまみを内側に折曲げたまま、差し込んでおけば、引蓋はそれ以上中に入らないので不用意にバックが外れるようなことはありません。)

II. フィルム バックの開き方

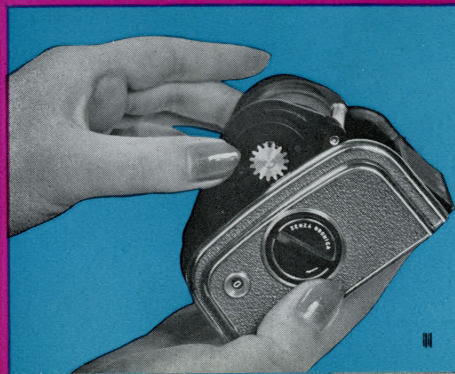
- A. まず赤いロックボタンを押し同時に黒い開閉つまみを矢印（時計の廻転方向）の方向へ少し廻し、ボタンを離してから一杯にお廻し下さい。
- B. すると（図のように）フィルム バックの後蓋がはずれます。
- C. フィルム バックからフィルム ホルダーをとり出します。（フィルム 捲上環を矢印反対方向に廻すとホルダーが楽にとれます。）
- D. フィルムホルダーは二つの部分が蝶番で組合されています。この二つの部分を開きますと内側にはフィルム捲取スプールを入れる軸受けがあり、外側には新しいフィルムのスプールをはさむ軸受けがあります。



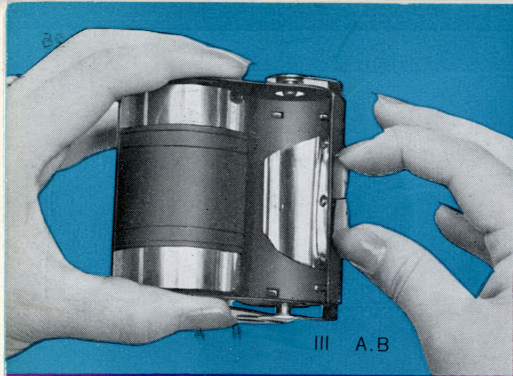
II A



II B



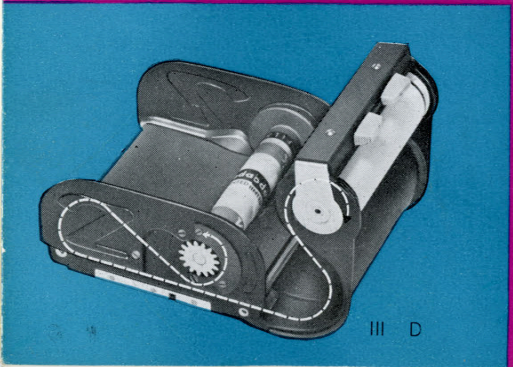
II C



III A.B



III C



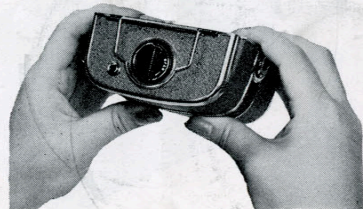
III D

III. フィルム バックにフィルムを入れる

- A. フィルムホルダーを開き二つの灰色のつまみを赤い矢印の方向につまみますと、スプール軸受が開いて新しいフィルムを入れられます。
- B. フィルムホルダーの曲線に沿って裏紙の外側が底になるように新しいフィルムを入れて下さい。そこで灰色のつまみを離しますとフィルムスプールに軸受が入ります。
- C. 次にフィルム裏紙をフィルムコースに沿って引出し、平らな圧板を通り、さらに次のローラーの上を通して捲取スプールに向います。
- D. リーダーペーパーを正しく平行に捲取スプールの溝に挿入してスプールを一回転分巻いておきます。
- E. フィルムホルダーを閉じて、これをフィルムバックの歯車とフィルムホルダーの歯車が噛合うようにフィルムバックにおさめます。

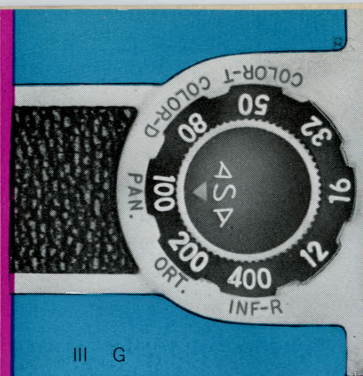
それから必ず捲上環を少しまわして、フィルムが正常に送られるのを確かめて下さい。

- F. ロックボタンを押して開閉つまみを戻してからフィルムバックの溝に後蓋をはめ込み、後蓋がフィルムバックにカチリと止まるまで上下を両手で押え込んで下さい。これでフィルムバックにフィルムが完全に装填されます。このとき後蓋はASAフィルムインジケーターのついている方を上にしてはめ込みます。天地をまちがえぬ様御注意下さい。



- G. フィルムの感光度と種類に応じて後蓋ASAフィルム インジケーターをセットしておきます。これであとはフィルム捲上環により、或いはカメラボディにフィルム バックをつけてフィルム捲上ノブで簡単に捲かれていきます。いずれの場合でもフィルムは第一枚目の撮影位置で自動的に止まり、フィルム番号表示窓には①がでます。

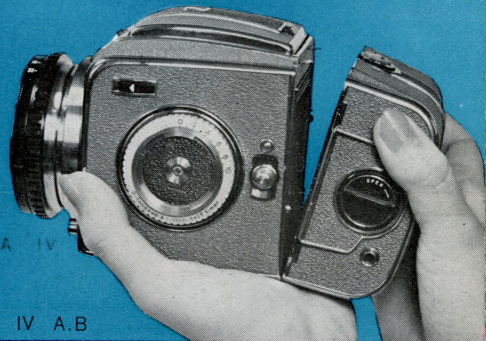
フィルム バックをカメラボディに結合してから、カメラボディの捲上ノブによって捲上げる際は、“カチン”と音がして捲上ノブが正規にストップするまで捲上げて下さい。



III G

IV. フィルム バックの装着

- A. カメラボディの底部にある鍵にフィルム バックを噛ませます。
 B. そのまゝ、天部を押し合せます。(カメラから外すときと反対に)
 C. はっきり“カチッ”と音がするまでカメラボディにフィルム バックを押しつけて下さい。これでフィルム バックはボディにつけられました。
 —注意— こうしてから引蓋を抜いておけば撮影準備は完了です。



A IV

IV A.B

フィルム平面度機構について

S字型フィルム コースとフィルム間歇緊張装置

プロニカのフィルム バックは、画面に出る前の一駒分のフィルムをS字型のコースにより捲癖を矯正してから画面に送ります。又フィルムが捲上がると同時にフィルムを縦方向に緊張させる装置が作動します。以上の機構により、ロールフィルムカメラとして最上のフィルム平面度が得られます。この緊張装置はフィルム捲上げの際は自動的に逃げてフィルムは円滑に送られます。新しいフィルムを入れるとき、又はフィルム バックを交換する時、緊張装置の状態については何の関連もありませんから全く心配はいりません。

B IV
注意



ブロンカによる写真の撮り方

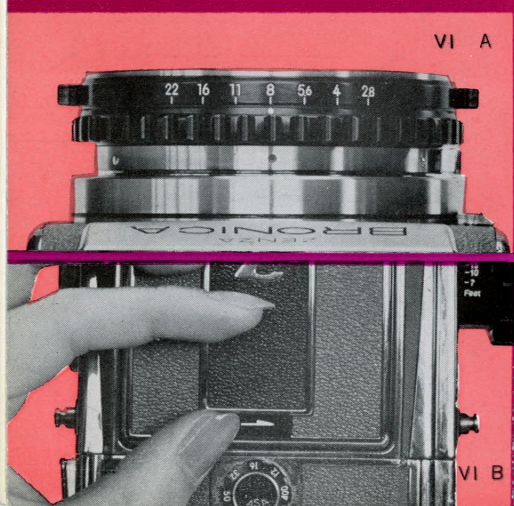
V. シャッター捲上げとフィルムの送り方

ブロンカの焦点ノブはシャッター捲上げとフィルム送りを兼ねています。

- A. まず焦点ノブの外側リングを一杯に引出しますと、シャッターとフィルム捲上げの態勢になります。(このときはクリック音がして赤い矢印がシャフト上に見えます)

そこで矢印の方向にノブを廻せばフィルムが送られシャッターが捲上げられます。フィルムかシャッターのどちらかゞ捲かれていれば片方だけが捲上げられます。

- B. シャッターとフィルムが完全に捲上げられたらノブを矢印とは反対の方向に僅かだけ戻すと、ノブは再び焦点調節の位置に落ちます。
—注意—ノブにはグレーのプラスチックカバーがつけてあります。よごれたり破損した際には新しいものとお取替えてできます。



VI. 絞りのプリセットと焦点調節

- A. レンズ上にある絞りプリセクター リングによって撮影に適当な絞りナンバーに合せます。

絞りプリセクター リングは絞りの各目盛の間にもセットできます。

- B. 次にピント フードの開閉ボタンを矢印の方向に押し開きます。

C. ピントガラスの画像をごらん下さい。

この像は隅から隅まで一様に明るいので、**焦準ノブ**をまわすとはっきり焦点が合ったかピンボケかすぐにお判りでしょう。

D. 7.5cm標準レンズでは**焦準ノブ**のシャフト上にある**距離目盛**が参考になります。このレンズは被写体に約50cm(フィルム面より)まで近接できます。5cm広角レンズと13.5cm望遠レンズの**距離目盛**は**繰出筒上**にあります。

E. 拡大像を見たいときは**フードカバー**の前面を手前に押し下げればルーベが起き上がります。ルーベによってピントガラスの全面が拡大して見られます。

F. 焦点を一定して反復撮影をしたいときには、**焦点固定レバー**を押し下げてレンズをその位置にロックすることもできます。

(複写とか舞台撮影等の場合)

G. ルーベを戻すにはルーベの**金属枠**を止まるまで押し下げます。

H. フードを閉めるにはまず両側面、背面、最後に前面の順序でパネルをた、みます。

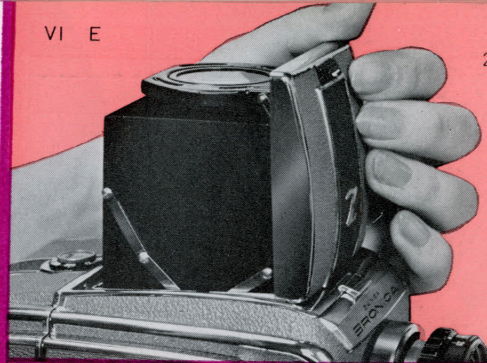
I. ピントフードをペンタプリズムやスポーツファインダー等と交換するため取外すには、カメラのネームプレートの上にある**ロック**を押し上げて下さい。

J. ピントフードをカメラにとりつけるには、ピントガラス枠後部の2つの爪とピントフードの孔を嚙合せてから押しこんで下さい。ピッタリ取り付けられます。

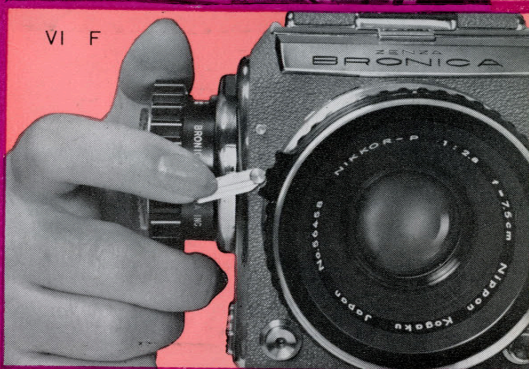


VI E

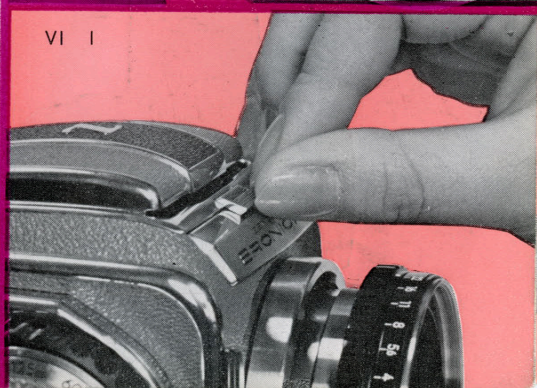
29

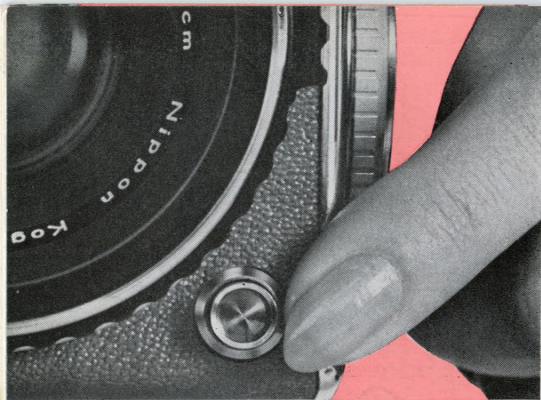


VI F



VI I





VII 焦点深度検視用自動絞りボタンの使い方

ブロニカは撮影のための絞り値とは関係なくレンズは常に開放となっています。けれども焦点を合せた後で実際に撮影する絞りの焦点深度を確かめてみたいこともあります。

A. それにはピントグラスを見ながら左方にある赤いボタンを押して下さい。

これで予めセットした撮影のための絞りまで絞り込まれ、画面での実際の焦点深度がみられます。

B. ボタンを放すと絞りは直ちに開放になります。



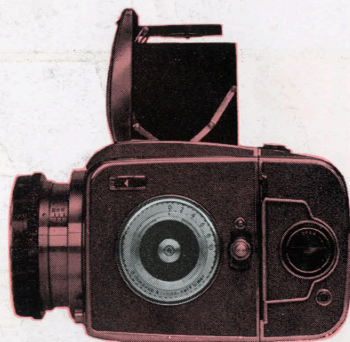
焦準



押す



放す



VIII. セルフタイマーの使い方

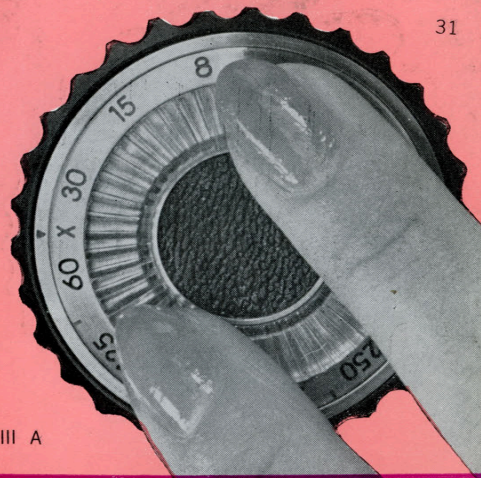
1秒から1/1250秒までの露出に対しては、2秒から10秒まで任意の時間のセルフタイマー撮影ができます。撮影者が画中の人になるだけの時間的な余裕が充分にある訳です。

又このセルフタイマーを使えば、シャッターボタンを押すと直ちにミラーが降下し撮影時はシャッターのみ作動しますので、スローシャッターの場合もミラー運動によるカメラぶれは絶対にありません。

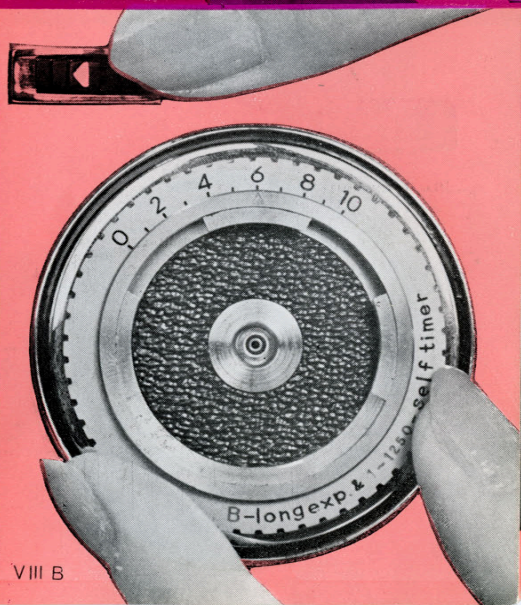
- A. まずシャッターダイヤルを廻して任意のシャッタースピードに合せます。
- B. セルフタイマー ロックを矢印の方向に押して外しておき セルフタイマーダイヤルを廻して作動時間を希望どおりセットします。
- C. シャッターがまだ捲かれていないときには捲いて下さい。
- D. 普通どおりシャッターボタンを押して撮影します。

—注意—もしセルフタイマーの作動時間をきめてしまって後でもう少し短い時間に直したい時は、希望の時間になるまでロックを矢印の方向に押して下さい。セルフタイマーダイヤルは自力で戻ります。またセルフタイマーを使いたくない時は完全に“0”の位置まで戻して下さい。作動時間を長くしたければ、希望の目盛まで更に廻していただければ結構です。

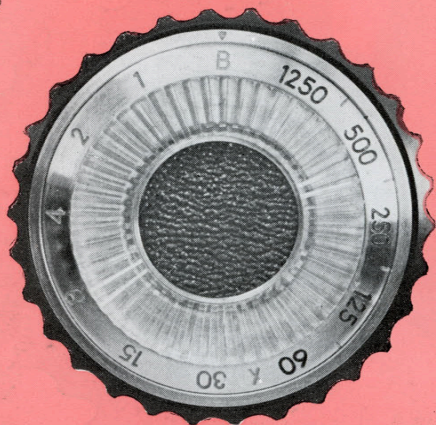
後に述べる2秒から10秒までの長時間自動露出(IX-D)にもこれらの操作があてはまります。



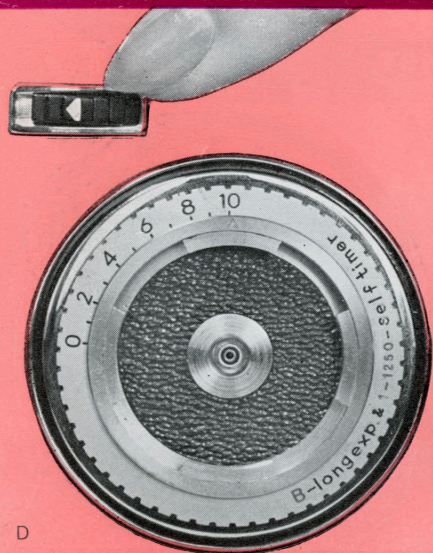
VIII A



VIII B



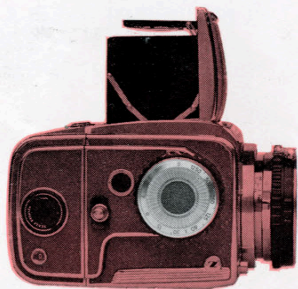
IX



IX D

IX. シャッタースピードの決め方

- A. シャッタースピードはシャッター捲上げの前後いずれでも自由に決められます。
- B. シャッタースピードは焦準ノブにあるシャッターダイヤルをどちらの方向からでもお廻しになって、赤い矢印下に任意のタイムをお合せ下さい。又 B と X 以外ならどの中間スピードでも差しつかえありません。
- C. 数字は 1 秒、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{8}$ 、 $\frac{1}{15}$ 、 $\frac{1}{30}$ 、X、 $\frac{1}{60}$ 、 $\frac{1}{125}$ 、 $\frac{1}{250}$ 、 $\frac{1}{500}$ 、 $\frac{1}{1250}$ のシャッタースピードです。
- “X” は $\frac{1}{60}$ 秒で X 接点によるフラッシュ(スピードライト)の最高スピードです。(フラッシュの使い方参照)
- “B” はバルブで 10 秒までの自動露出と 10 秒以上の手動露出に用いられます。
- D. 2 ～ 10 秒までの長時間自動露出にはまずシャッターダイヤルを“B”にしておきます。次にセルフタイマーダイヤルのロックを矢印の方向に押してからセルフタイマーダイヤルを廻し、希望する時間の目盛を赤い矢印に合せて下さい。
- セットして後の露出時間の変更については前項の「注意」を御参照下さい。



X. 露出の仕方

フィルムを送り、シャッターを巻き、絞りとシャッタースピードを決めてレンズの焦点を合わせたならば、いよいよ露出になります。

A. 引蓋が抜いてなければこれを抜きとってください。プロニカは引蓋が入っているとは写しませんから完全に取り出します。

—注意—フィルムバックをはずす必要がなければ引蓋を撮影の度毎に入れておく必要はありません。

B. 露出にはシャッターボタンを右または左人差指などで押します。露出が済んでもピントガラスの画像は露出の前同様にはっきり明るく見えます。これはプロニカのインスタントリターンミラーと完全自動絞りの自動装置の特長によるものです。

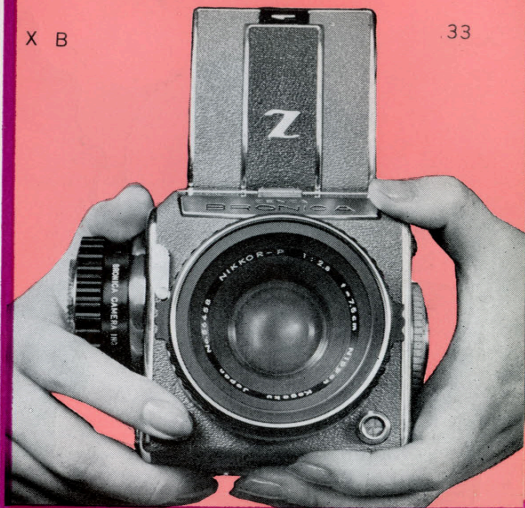
C. $\frac{1}{30}$ 秒より遅い速度で撮影する際は、なるべく丈夫な三脚もしくはしっかりした台の上にプロニカをのせるようにして下さい。

D. また露出時間が長い場合にはケーブルリリースの使用が望ましいものです。リリース孔はシャッターボタンにあります。

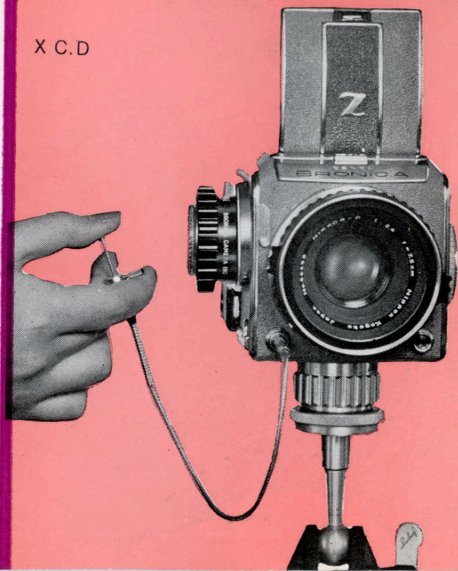
E. 10秒以上の露出にはフィルムとシャッターを普通どおり巻き、シャッターダイヤルを“B”にし、セルフタイマーダイヤルを正しく“0”に合せます。シャッターボタンを押せば押している間だけフィルムは露出され離せばシャッターは閉じます。この場合ケーブルリリースの使用が望ましいことは申すまでもありません。

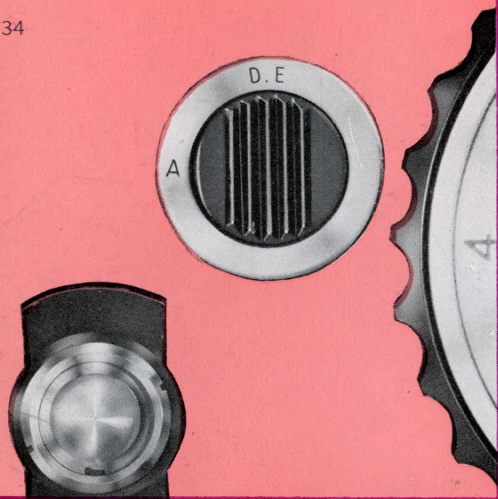
X B

33



X C.D

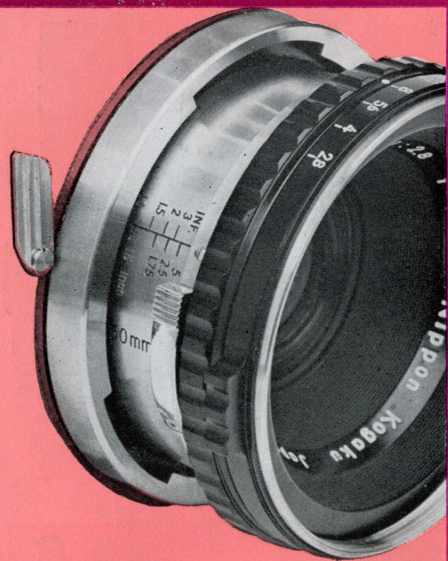




XI. 二重及び多重露出

ブロニカでは不用意に二重露出は出来ません。これはフィルムとシャッターが同時に捲上げられるからです。しかし時には二重露出の望まれることもあります。ブロニカではこれも勿論可能です。

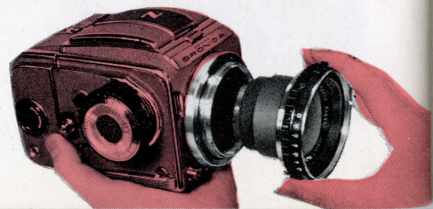
- A. 一回露出してから同一フィルム上に重ねて露出したいときは、二重露出ダイヤルを黒のAから赤のD.Eに合うよう時計の針の回転方向に $\frac{1}{4}$ 回転させます。
- B. こうしておいて捲上げノブを捲けば、フィルムは送られずシャッターだけが捲上げられ、これで二重露出ができます。
- C. 露出が済めば二重露出ダイヤルは自動的に元の位置Aに戻ります。多重露出のためには繰返してD.Eにセットすればよいのです。



XII. レンズの交換

ブロニカのレンズは迅速容易に交換できます。7.5cm 標準レンズ、8.5cm 大口径、5cm 広角レンズおよび13.5cm 望遠レンズは $\frac{1}{4}$ 回転バヨネットマウントであります。

- A. バヨネット マウントのレンズを外すには、レンズの前面を右手で持ちバヨネット ロックに親指を当て、下さい。
- B. バヨネット ロックを親指で押し同時にレンズを $\frac{1}{4}$ 回転だけ左(時計の針と反対方向)に廻せばレンズは外れます。
- C. レンズをつけるには繰出筒の中にレンズを入れ、レンズリングと繰出筒にある赤点を合わせてからバヨネット ロックが落ちるまでレンズを右に(時計の針の方向)廻して下さい。
- D. 18cm以上のプリセット絞り付ニッコール望遠レンズは、繰出筒の外側にある大型バヨネットに装着します。焦点調節はレンズ自体のヘリコイドによります。



—注意—プロニカの繰出筒の内側には径 57mm ピッチ1mmのネジマウントがあります。これはお手持のレンズを簡単に取付けて御使用いたゞくためです。繰出筒の最前面からフィルム面までは102.0mmです。

XIII. フラッシュ撮影

プロニカはシンクロ接点をシャッターダイヤルに連動して自動的に切替えますから、他に何の操作もなく次のようにフラッシュ撮影が出来ます。

F P 級バルブは 全速度 (Xを除く) M 級バルブは B, $1 \sim \frac{1}{30}$, $\frac{1}{60} \sim \frac{1}{2}$
F 級バルブは B, $1 \sim \frac{1}{30}$ スピードライト(ストロボ)は B, $1 \sim X$ ($\frac{1}{50}$)

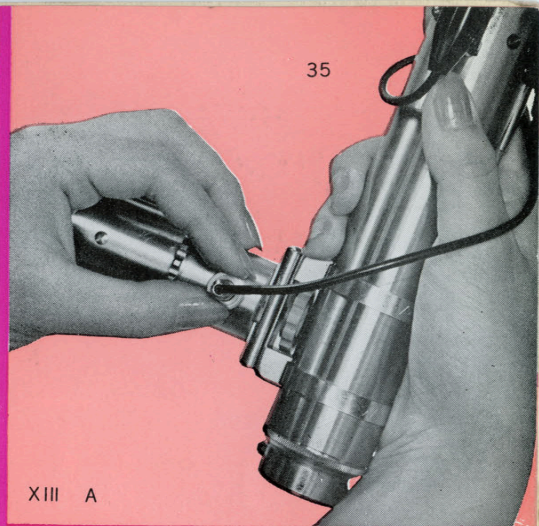
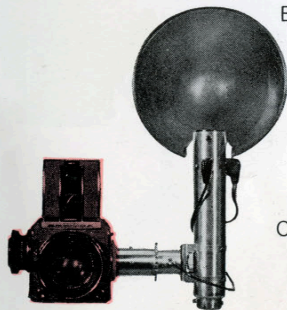
プロニカのフラッシュ接点には標準の接続コードが用いられます。専用バヨネット又は付属品のフラッシュガン アダプターによってガンをカメラに取付けばノーコードで確実に接続します。

A. フラッシュガン アダプターを使うにはフラッシュガンをアダプターの上又は横のシューにとりつけ、ガンの接続コードをアダプターのソケットに差し込みます。

—注意—フラッシュガン アダプターのソケットには接続コードのターミナルが外れないようにロックのリングがつけられています。このリングを時計の針と反対の方向に少し回転してから、ターミナルを差し込んだのち時計の針の方向に廻せばリングが固定します。

B. フラッシュガン アダプターをカメラのバヨネット取付座に合わせて押込み、アダプターが希望する位置にロックするように廻します。これで電氣的導通は完全になります。バヨネットのアダプターはどんな型のフラッシュにも合うよう角度を自由に変えてカメラに取りつけられます。

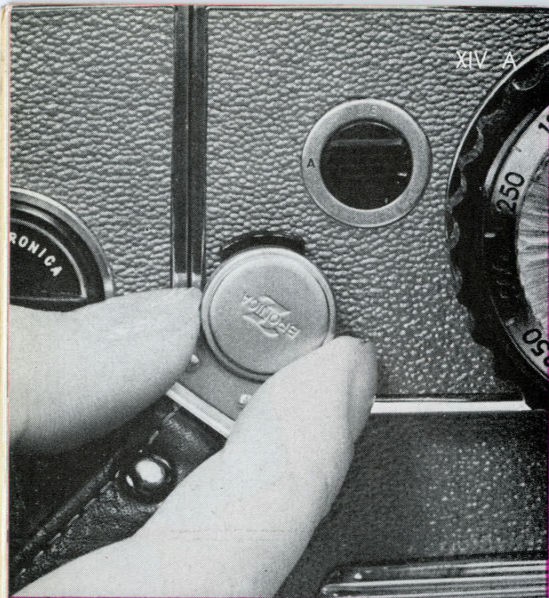
C. フラッシュ装置を外すにはフラッシュアダプターの中央の鑿を引き出し、どちらかの方向に回転させれば取り外せます。



XIII A



XIII B.C



XIV. プロニカのストラップの使い方

プロニカのストラップは次の二つの使い方があります。第一はカメラを安全に携帯する上に便利なためであり、第二は特に長い焦点距離のレンズの場合に露出時間中カメラを安定させるためです。ストラップをつけるとレンズを下向きにしてカメラを提げることになりますが、これが一番便利で都合のよい姿勢です。同時にレンズを保護することにもなります。

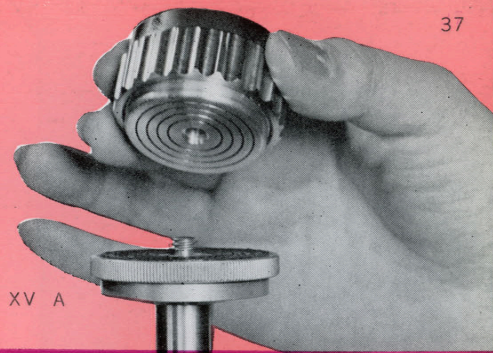
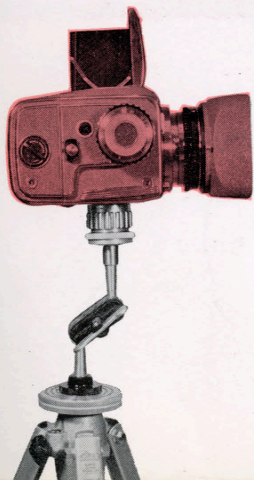
- A. ストラップの両端には二つの取付金具がありますから、これをカメラの両側の取付座にそれぞれ押し込んで下さい。これでストラップはしっかりとカメラについています。
- B. ストラップを外すには、カメラの両側の取付座の上にある小さな翼状金具を水平につまみ上げて取付金具を外します。
- C. 撮影中カメラを安定させるには、ピントガラスの画像を見易くするようにストラップの長さを調節し、露出する際にはカメラを下に引張るようにします。これは手ブレを防ぐに極めて有効な方法です。



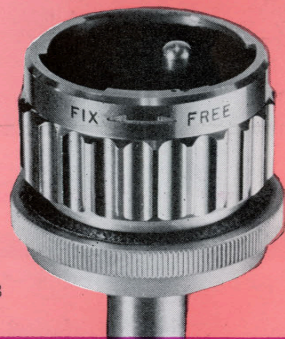
XV. 三脚の使い方

ブロニカには $\frac{1}{4}$ インチの標準三脚ねじ（小ネジ）がついています。又専用アダプター（スピードロック）によって、より確実にカメラを支え、或いは三脚の着脱を迅速、簡便にできるようにバヨネット三脚マウントがあります。

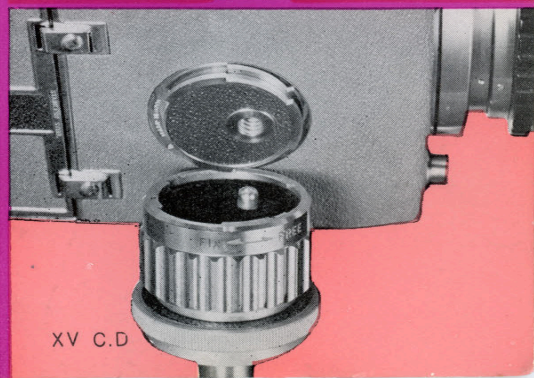
- A. まず三脚の頭部をアダプターの三脚孔にねじ込んで固く締めます。
- B. 次にアダプターの外側のリングを「FREE」の方向へ一杯に廻して赤点と赤点とを合せます。
- C. アダプターのピンをカメラの三脚ネジ孔に入れバヨネットマウントを合わせてカメラを落とし込みます。
- D. カメラとアダプターが密着したところでアダプターリングを「FIX」の方向に廻して締めつけます。
- E. カメラを三脚から外すにはたゞアダプターリングを「FREE」の方に廻せばよいのです。



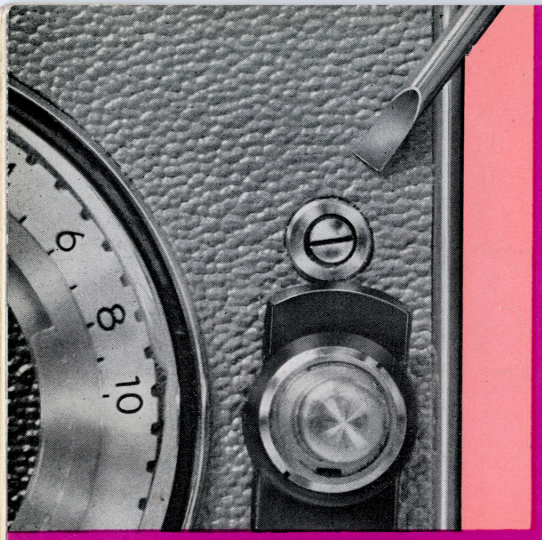
XV A



XV B



XV C.D



XVI. ニュートラル復元スクリュー

プロニカは堅牢で誰にでも使える精密機械ですが、もしも誤った使い方をしたり無理な扱いをいたしますと作動しなくなることがあります。

例えばセルフタイマーが働いている時にシャッタースピードを変えようとしたりすると故障を起します。また操作中シャッター幕とかミラーの動きがさえぎられるような場合も同様です（Bの場合等先幕が走行してから後幕の走行を手等で止めたりすると）。もしプロニカが動かなくなった時は次のようにして下さい。

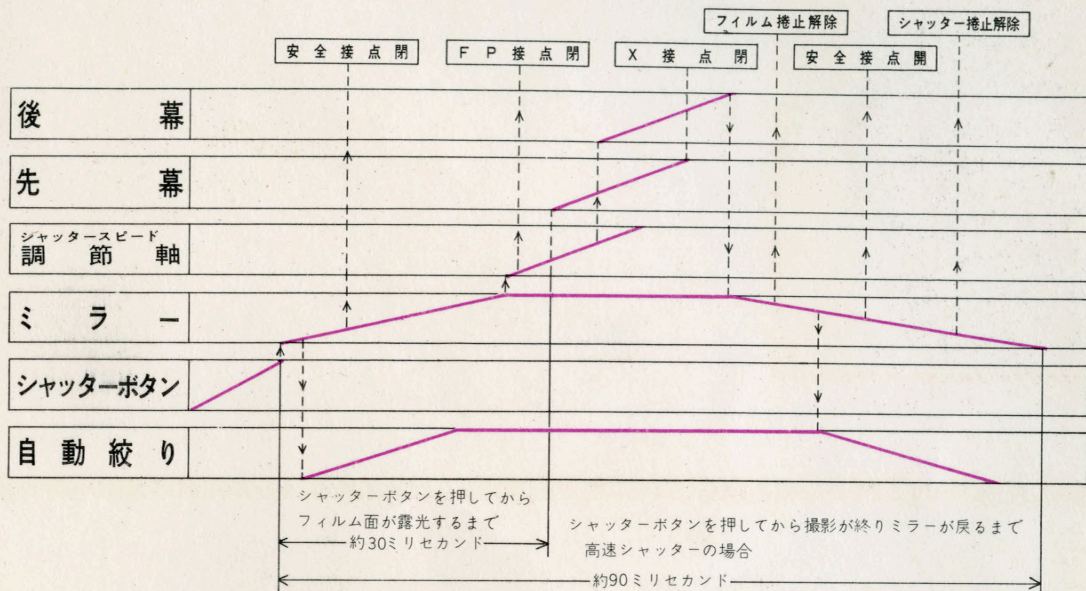
- A. 細いねじ廻しをニュートラル復元スクリューのネジ溝に当てて時計の針の方向へ一杯に廻して下さい。これで機械は直ちに捲上げ前の正規の状態に戻ります。
- B. 次にスクリューを反対方向に元通り戻しておいて下さい。

プロニカの新しい附属品や新しい資料を随時発表し、お知らせいたしたいと存じます。それにはプロニカ愛用者カードを直ちにお送り下さい。御住所と御名前を即刻登録させていただきます。

プロニカ カメラ株式会社

東京都板橋区上板橋町4丁目124番地

ブロニカの作動図解表



国内総発売元

株式会社 ブロニカ

東京都千代田区神田多町2丁目4番地

